

科学研究費助成事業（特別推進研究）中間評価

課題番号	18H05213	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	アイドリング状態の脳における情報処理メカニズム	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	井ノ口 馨 (富山大学・学術研究部医学系・教授)

【令和2(2020)年度 中間評価結果】 ※評価欄は、該当するものに「○」を付してください。

評価	評価基準	
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、潜在意識下の脳活動（アイドリング脳活動）を、研究代表者の独自の実験系で自由自在に制御し、記憶の形成や固定にアイドリング脳活動がどのように関わるかについて明らかにする取り組みであるが、順調な研究成果を得つつある。

特にレム睡眠時のACCの活動が重要であること、また忘れ去っている記憶の痕跡が後の体験記憶と相互作用して新しい記憶の形成に働きうることを発見するなど、極めてユニークかつソリッドな結果が得られている。本研究は、人が夢を見る意味の理解や、個性を生み出すメカニズムの理解などにも、将来的に繋がるかもしれない大きな可能性を秘めた独創的な研究であり、研究分担者との連携もより一層深めながら、今後更にこの新しい研究分野の展開に貢献する事が期待される。